

1. 平成 22 年 9 月中間期決算の特徴点

正味収入保険料は自動車保険等の増収などにより増収し、正味支払保険金は新種保険の支払い減により減少しました。しかし、保険引受利益は前中間期間の 1,406 億円から 791 億円の大幅な減益となりました。

また、資産運用は金融緩和や円高などの影響を受けたものの有価証券売却益が増えたこともあり、資産運用粗利益は増益となりました。

その結果、経常利益は対前中間期間比 2.6%増益の 2,820 億円を確保したものの、中間純利益は特別損失増加の影響もあり 9.1%減益の 1,720 億円となりました。

2. 保険引受の概況

(1) 正味収入保険料

正味収入保険料は、新車販売が好調であったことから自動車保険や自賠責保険で増収となり、平成 18 年中間期以来 4 年ぶり増収の 3 兆 5,333 億円となりました。

* 正味収入保険料 = 元受正味保険料 + 受再正味保険料 - 出再正味保険料

(2) 正味支払保険金

正味支払保険金は、自動車保険で支払増加がありましたが、新種保険の支払いが減少したことから、対前中間期間比 0.1%減の 2 兆 1,393 億円となりました。

また、損害率は、66.4%から 66.0%へ 0.4 ポイントダウンしました。

* 正味支払保険金 = 元受正味保険金 + 受再正味保険金 - 回収再保険金

(3) 事業費

「諸手数料及び集金費」は対前中間期間比 0.5%増の 6,183 億円となりましたが、保険引受に係る「営業費及び一般管理費」は対前中間期間比 0.6%減の 5,996 億円となったため、事業費率は 0.2 ポイントダウンの 34.5%となりました。

(4) 保険引受利益

前中間期に比べ損害率や事業費率はダウンしたものの、自動車保険等の損害率の悪化などにより、保険引受利益は対前中間期間比 614 億円減益の 791 億円となりました。

* 保険引受利益 = 保険引受収益 - 保険引受費用 - 保険引受に係る営業費及び一般管理費 ± その他収支

3. 資産運用の概況

利息及び配当金収入は、ゼロ金利政策が続く厳しい環境でしたが、配当収入の上積みもあり対前中間期間比 6.0%増の 2,766 億円となりました。

また、円高により為替差損が増加したものの、有価証券売却益が対前中間期間比 59.6%増益の 1,116 億円となったこともあり、資産運用粗利益は対前中間期間比 35.5%増加 2,340 億円となりました。

4. 資産並びに純資産の概況

総資産は、株価水準が前期末より低下したことにより、所有株式時価が減少し、対前期末比 4.4%減の 30 兆 1,028 億円となりました。

また、純資産については、その他有価証券評価差額金が減少したことから対前期末比 9.5%減の 5 兆 133 億円となりました。

5. ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率は、金融庁長官によって早期是正措置がとられる水準である 200%を各社とも上回っております。

協会加盟会社（2010年9月30日現在 27社）

あいおい損保、朝日火災、アドリック損保、アニコム損保、イーデザイン損保、エイチ・エス損保、SBI損保、共栄火災、ジェイアイ、スミセイ損保、セコム損害保険、セゾン自動車火災、ソニー損保、損保ジャパン、そんぼ 24、大同火災、東京海上日動、トーア再保険、日新火災、ニッセイ同和損保、日本興亜損保、日本地震、日立キャピタル損保、富士火災、三井住友海上、三井ダイレクト、明治安田損保

損害保険会社の平成22年9月中間期決算概況

